

平成27年度第1回長崎県観光審議会 会議結果

1. 日 時 平成27年4月24日(金) 13:30～16:30
2. 場 所 ホテルセントヒル長崎2階「妙見の間」
3. 出席者 安徳委員、山下(信)委員、内田委員、草野委員、河野委員、
道津委員、納富委員、丸山委員、室委員、横山委員、桑原委員、
徳島委員、中坂委員、中山委員
4. 議 事
 - (1)会長及び副会長の選任について
 - (2)長崎県観光振興条例及び長崎県観光審議会について
 - (3)次期長崎県観光振興基本計画の策定(骨子(案))について
5. 主な意見 別添のとおり

平成27年度第1回長崎県観光審議会(主な意見)

項目	意見
<p>次期長崎県観光振興基本計画の策定(骨子案)について</p>	
	<p>将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードとして「観光客の動きが見えるような言葉」を入れた方がよい。 ・将来像は、他の自治体の名前を入れても通じるようなものは避けた方がよい。 ・「多文化交流」という単語はよいと思う。これまで培ってきた長崎ならではの海外との交流の歴史を表現することができ、今後の国際交流なども表すことができる。 ・「まち」という単語を使うと、「しま」という単語が出てこなくなるので、長崎県の観光全体を表現するのは難しいと思う。 <p>施策体系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1.(1)観光地づくり、(2)素材の磨き上げについて <p>観光客の「観光行動」は、観光地や観光資源といった花形のポイントと、その間の街中や普通の場所といった「つなぎ」の空間で行われるものである。そのため、花形のポイントの磨き上げも不可欠だが、「つなぎ」の空間も含めた全体的な景観形成という視点がまちづくりには必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1.(3)ユニバーサルツーリズムの推進について <p>旅行中に何かあったときにも安全に対応できるといった安心感の視点が、ユニバーサルツーリズム受入体制づくりには重要ではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2.(1)おもてなしの推進について <p>一般の方や地域住民のおもてなしを推進することで、住民がその地域に対する誇りを持ったり、観光客との触れ合いに楽しさを感じられるといった住民生活の活性化を促進するという視点を盛り込んだ方がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5.(1)「海外との交流」に根ざした観光客誘客について <p>海外の観光市場は急速に成長しているため、施策体系に具体的な国名を記載してもよいのか疑問に思う。また、記載するのであれば、例えば、タイは現状のデータなどから、体系の中に記載した方がよいのではないかと思う。5年間の中長期的計画であるということを踏まえた記載を検討した方がよい。</p>
	<p>将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットなどでよく使われている「和華蘭」という単語を入れた方がよいのでは。 ・県民の方たちに対してインパクトがある将来像がよい。 <p>施策体系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5.(1)海外の観光客誘客について、具体的な地域性や国名は記載しない方がよいと思う。
	<p>将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体などの取組を情報収集し、分析したものを活かしていくことが大事である。 ・顧客目線でお客様が一目見てすぐわかる、そして、県民が愛着を持てるようなわかりやすいキャッチフレーズがよい。それをもとに県民一人一人が広報マンとして長崎をアピールしていけるようにしていかなければならない。
	<p>将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎は世界へ平和を願う気持ちを発信していく場所であると思うため、「平和(またはピースフル)」という単語を入れた方がよい。
	<p>将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被爆地である長崎は世界的にも広く知られており、観光においても「長崎で祈る」というイメージは必要だと思う。 ・「おもてなし」、「笑顔」、「元気」といったありきたりな言葉は他の自治体でも言っていることであるので、入れない方がよい。 ・「しま自慢」というフレーズはおもしろい。長崎には日本のゲートウェイとして、海外からの文化などを受け入れた出島があり、離島が多くあることから「しま」というフレーズは入れた方がよいのではないかと思う。

平成27年度第1回長崎県観光審議会(主な意見)

項目	意見
	<p>将来像 ・国内向けのメッセージとインバウンド用のメッセージと分けて考えるという方法もある。</p>
	<p>将来像 ・長崎らしさというのを考えたとき、キリスト教関連の教会群なども含めて「祈り」という言葉が良いと思う。</p>
	<p>将来像 ・祈りは教会だけでなく、弘法大師が通った道や神社などの宗教的なものに共通する。また、平和の祈りもある。そうした全ての祈りをストーリー性にしたものを打ち出せば、何かいいものができるのではないかとと思う。</p>
	<p>将来像 ・「祈り」というキーワードが県内各地域でイメージできるのであれば、それが言葉としてはとてもよいのではないかとと思う。</p>
	<p>将来像 ・「音」は、教会の音や海の音といった長崎の風景を連想することができるが、「祈り」という言葉は、長崎を表すにはよいと思うが、旅行とどのように結びつけられるかが難しいと思う。</p>
	<p>将来像 ・「歴史」と「祈り」と「長崎」というのを組み合わせればよいキャッチコピーができるのではと思う。</p>
	<p>将来像 ・キーワードから各地域がどのように関連付けられるか、また、基本計画に記載される各種施策とキーワードがどのように結びつくのかということを考えていく必要がある。 施策体系 ・1. 観光まちづくりについて 地域区分があるが、この地域にはあまりこだわらずに、地域を越えた施策の推進といった視点を盛り込んだ方がよい。</p>
	<p>将来像 ・ターゲットとしたいものに訴えるキャッチフレーズと、全体で共通して目指していく将来像は分けて考える必要がある。 ・過去の歴史から見ても、長崎はいろいろなものの始まりであって、日本が海外からさまざまなものを柔軟に取り入れているという姿は長崎の縮図ではないかと思う。そういったことは国内、海外両方に訴えていくことができると思う。</p>
	<p>将来像 ・長崎がいろいろなものの発祥地であることや「祈り」、「出島」といったキーワードを結びつけて、若い人たちからアイデアを集約した方が、よりよいキーワードができると思う。</p>
	<p>地域区分 ・区分けは、現在の観光の流れに沿っていないと思う(例えば、諫早は島原半島の玄関口となっており、連携が必要だが、区分けでは県央地域と島原半島地域となっている)。今後の観光の実情に沿った区分けをしないと、地元の方も連携がとりにくい。</p>